

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 水の会
施設名	足立区立青井おひさま保育園
報告者（役職）	工藤 和訓（園長）
住所・連絡先	東京都足立区青井1丁目7番6号
	☎ 03-5888-7063 E-mail aoi-ohisama@mizunokai.ed.jp

○タイトル（保育計画）

「木漏れ日のベンチ」

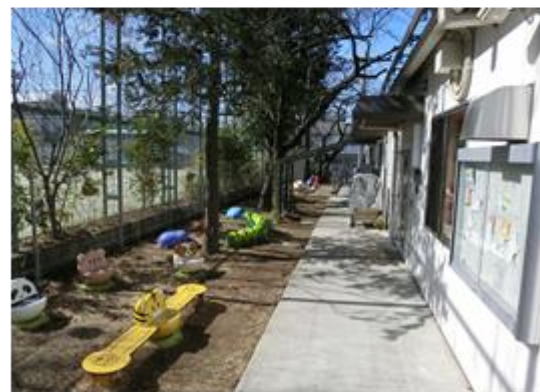
○主な助成備品

- ・森の腰かけ（カブトムシ、クワガタ、テントウムシ、イモムシ、バッタ）
- ・動物ベンチ（シングル、サイド、ツーサイド）
- ・トトと仲間たちセット

1. 実施した保育計画策定の目的

本園は児童遊園地であった場所に建てられ、園舎の南東には桜など園舎の屋根を超すほどの大樹が並んでいます。開園時には、幼い子どもたちが活動しやすいようにと芝生を敷き、東京という都会でありながらも、草花やセミ・蟻などを身近に感じながら過ごしています。この大樹からの木漏れ日の中に白い園舎があります。南側には、砂場や木製遊具を設置した園庭もあり、活動に合わせて使っています。近くに公園もあり、走り回ったり、遊具で遊んだり年齢に合わせて自然の中で遊ぶ機会を設けています。しかし、梅雨が明けると瞬く間に熱中症警報が続き、幼い子どもたちが戸外で過ごす時間は限られてしまうのが現状です。少しでも吹く風の心地良さを感じ、自然に触れるときを大切にしていきたいと思います。南東側の庭の「木漏れ日のベンチ」構想を計画しました。

この南東側の庭は園舎に沿って細長く続いており、ところどころに大樹があることから運動的な活動をするにはやや手狭な空間となっていました。ベンチを置くことで子どもたちは、大樹を見上げ、地面や幹で動く虫たちを発見したり、落ち葉や木の実を集めて自然に興味関心をもっと持てるようにと考えました。そして、今まで子どもたちは遊び疲れたら、玄関前のコンクリートに腰を下ろして休んでいましたが、ベンチを点在させることで「まだ、ここにいたい!」という気持ちを大切に、運動面の向上や一休みしたらまた遊びだす好奇心旺盛な子どもたちのお休みの場に、これまでとは違った視点から新たな発見をし喜びも増すことだと考えたのです。



2. 具体的な実施内容

ベンチがあることで、子どもたちの大好きなかくれんぼや椅子取りゲームのような簡単なゲームに使用することができ、遊びが広がっていきました。また、0歳児から2歳児の子どもたちの発育の観点から、椅座や跨座するのに適度の高低差や形状の異なるベンチを設けたことで、しがみついて登ることや上からジャンプするなど、子どもたちの個々の運動機能の促進にもつながっています。南東側庭の今の環境を生かしながら、動物や昆虫、恐竜など子どもたちの興味をそそるベンチを設けたことで子どもたちの心が動き、自らかかわろうとする姿や生きた虫を怖がっていた子どもが虫に親しみを持ち、触れるようになるなど、様々な面で興味関心が膨らんでいます。また、子どもたちはごっこ遊びが大好き、動物や虫のベンチに木の実や草などの食べ物を運び食べさせてあげたり、自分の思いを話しかけたりしながら想像の世界を楽しんでいます。

今年の発表会では、本園の特色でもあるお話の世界を楽しみながら表現活動を行うのですが、その中に登場するキャラクターが0歳児ではミツバチのブンブンや1歳児では恐竜の竜ちゃん、2歳児ではハラペコアオムシさんになりきってのびのび自己表現する姿が見られました。子ども達の心を動かすベンチに触れ慣れ親しんできたことで、日々の保育、またその延長線上にある行事までも変化したのでした。



3. その成果と評価

夏の暑い日だけではなく1年を通して、森の仲間ベンチに座り休憩することで、子ども達の顔は自然と笑顔になります。それは、友達と一緒に話ししたり、地面を歩いている虫さんと距離が縮まり虫に触れるようになったり、ベンチの動物さんに食べ物を食べさせてあげたいと思う優しい心が芽生えたりしました。また、楽しい時間を友達と共有したことで仲間意識が強まり、一緒にごっこ遊びへと発展するなどコミュニケーションの場にもなりました。

「自然」は、子どもたちに計り知れない驚きや感動を与えてくれる素晴らしい環境です。そこに、子どもの心を動かすベンチという物的環境と保育士という適切な援助をする人的環境をプラスすることで、人格形成の基礎となる乳幼児期の生活の場である園生活をより充実できたと考えられます。

4. 今後の課題と展望

今後はベンチなどの位置替えを行うことを通して、宝探しなどのゲーム遊びを広げたり、他の玩具と組み合わせながらより二つの（想像・創造）性を膨らませていけるごっこ遊びを行えるように工夫や援助をしていきたいと考えております。現在足立区では、魅力ある地域の公園づくりと題して「にぎわい」と「やすらぎ」に分類し力を入れておりますが、本園でもベンチに座りながらゆったりしたやすらぎ（静）と、可愛い虫や動物たちのベンチなどを使いながら活発ににぎわえる遊び（動）の両面を取り入れ、「まだ、ここにいたい！」「もっと遊びたい！！」と思えるよう健やかな心と体づくりに力を入れていきたいと思っております。これから、どんな遊びが見られるか楽しみです。

以上

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 さきたま会
施設名	薫る風・上原こども園
報告者（役職）	森 文稔（統括責任）
住所・連絡先	東京都渋谷区上原 2-2-17
	☎ 03-3465-0415
	E-mail mori@kaorukaze.jp

○タイトル（保育計画）

薫る風・上原こども園 自然教室 - 環境共生型庭園へ-

○主な助成備品

パーゴラ、長ものブドウ苗、木製植えマス、客土、水盤立ち上がり、水生植物等

1. 実施した保育計画策定の目的

法人の保育目標、『自然を大切にする子』を自然が少ない東京都内の中心地でも実践すべく、園庭に貼付資料の通り様々な季節の植物を植栽し、園児に自然を通して四季を感じられるように工夫しました。今回の助成事業の実施で、更に園児達が四季折々の植物や果物、野菜の育成体験、また水生生物や昆虫、鳥等の生き物と日常的に出会い、触れ合う機会を創出することを目的としました。

2. 具体的な実施内容

具体的な実施内容につきましては、

①砂場にパーゴラの設置及びぶどうの植栽



②ビオトープの設置



③カンキツ類（ミカン）の植樹



④菜園の設置となります。



3. その成果と評価

①の砂場に設置したパーゴラにつきましては、夏の炎天下でもパーゴラに絡めたぶどうの葉が自然の日陰を作り、その下で園児たちが安心して砂場遊びができるだけでなく、夏に熟したぶどうの実を収穫して食すことを通じ、園児たちに自然の法則に従った食育を体験させることができるようになる予定です。



②のビオトープにつきましては、四季折々の水生植物の移り変わり、花菖蒲や蓮の花、ガマの穂綿等が観察出来たほか、メダカ、小鮒、おたまじゃくし、ザリガニ、ヌマエビ等の水生生物の観察をしています。夏には、皆でザリガニ釣り体験をしました。園児は大喜びでした。





③園庭に新たに植樹したカンキツ類（ミカン）の植樹につきましては、多くの実がなったことから園児達での収穫、そのまま食するという実体験を積むことが出来ました。ミカンの木に訪れるチョウの産卵、春にチョウの羽化が見られることを期待しています。



④の菜園につきましては、普段園児たちが食卓で実際に口にするトマトやキュウリといった身近な作物を育てることを体験出来ます。作物を育てることの苦労や喜びを園児たちで共有し、その体験を通じて食べ物に対する興味や感謝の気持ちを高めることを期待しています。



4. 今後の課題と展望

実施して1年目、まだバーゴラのぶどうの生育が充分ではなく、一つの目的でもあったバーゴラの上を覆う日除けとはなっていないので、引き続き肥料を追加したりして生育を園児達と見守っていくこととなります。

家庭菜園では、夏野菜、秋野菜と季節の旬の野菜を栽培して、園児達も大いに食育体験を果たす一定の成果を挙げました。将来的には、菜園に春夏秋冬、季節ごとに種まきや苗の植え付け、収穫など子ども達が興味や主体性持ち、栽培出来るような体制に持っていけたらと考えています。

また、ビオトープも環境が落ち着いておらず、水生植物が水生生物の食料となっている面や水生生物を鳥が捕食しているのか、一時的にメダカの数が増減したり、また、ビオトープの生態系として、外来種であるアメリカザリガニやウシガエルと疑われるオタマジャクシが生息しており、教育的にも生態系としてもあるべきビオトープを園児と共に研究し、整備していきたいです。

以上

保育計画成果報告書

法人名	株式会社 アンミッコ
施設名	春アンミッコ保育園
報告者（役職）	小倉ひかり（施設長）
住所・連絡先	東京都練馬区春日町3-31-42 ☎ 03-5848-3905 E-mail hikari@ammicco.co.jp

○タイトル（保育計画）

親子の絆、子どもの心を育む『絵本の森』

○主な助成備品

L字本棚、絵本、観葉植物、装飾用小物、絵本立て

1. 実施した保育計画策定の目的

平成24年4月、当園が開園を迎えた。辛うじてウワモノと保育に必要な最低限度のものは揃っているものの“なくても何とかなる”でも“あったほうがいい”ものは殆どと言っていいほどないないづくしでのスタートとなった。

子どもの育ちにとっても絵本は不可欠なのは周知である。開園当初は職員が持ち寄ったり、某リサイクル書店やフリーマーケットで揃え、1年目途中に区立図書館で処分する絵本や紙芝居を頂いた。それを6クラスに分ける。絵本は各クラスの棚に充分に収納できる程度の量だったが、子ども達は日に何度も手に取り、保育者はそこから子ども達へ読み聞かせの絵本を選んだ。

絵本は子どもの育ちにとっても大事な要素がいっぱいだ。もっともっとたくさんの絵本にふれさせてあげたい…職員みんなの思いだった。

保育園の子ども達は幼稚園と違い、保育時間が長い。当園でも長い子どもでは、保育園に毎日11時間以上いる。保護者が保育園に迎えに来た時は、大人もさることながら子どもだって疲れているのである。保育園の玄関を出る時から、子どもの我がママが始まる。大きくなったのに抱っこをせがみ、ママ、ママ、とうるさくつきまとう。子どもは長時間頑張って、甘えたい、それを理解して欲しいという気持ちの表れである。しかし、親も疲れているところにこの状態ではイライラが増す…という誠に悪循環な毎日が保育園で繰り広げられていた。これでは、せっかく頑張ってママを待っていた子どもも、一生懸命仕事をして迎えに来た親もうかばれない。負のスパイラルの始まりだ。

子どもだって、お腹がすいている。早く帰って晩ご飯を食べたいだろう。そのためにママが忙しく夕食を作らなきゃいけないのはわかっている。そのあとは保育園からも持ち帰った汚れた衣類を洗濯しなきゃいけない、お風呂の準備もしなきゃいけない…ママは忙しい、頑張っている…そんなこと、子どもも百も承知なのだ。グズグズ言っではいけない、怒られる、ママを困らせる…子どもだってわかっている。でも…。

何か策はないだろうか…。考えたのが絵本だった。5分でいい、1冊でいい、ママが子どもを膝にのせ、ゆったりと読み聞かせをする時間と場所を作れば、そこで子どもは母の温もりを感じ、安心し、嫌なことをちょっぴり忘れられ、疲れが少し癒されるのではないか。ほんのわずかな時間でも、そうすることでママも子どもも、心に少しの余裕が芽生え、ニコニコ笑顔で園を後にすることができればどんなにいいだろうか。

絵本がもっとあれば…。絵本の世界は心を育み、そして絵本が親と子を繋ぎ、温かな絆を育む。保育園からそういう環境と時間を提供することの大切さ、必要性を強く感じた。

2. 具体的な実施内容

園の玄関をくぐると、ほんの小さな、ホールのようなスペースがある。1階は0、1歳児の保育室、2階には2歳児以上の保育室があり、このホールの横に階段が設けられている。即ち、誰もが目に入るスペースだ。ちょうど壁側には何も置いていなかったのので、ここに本棚を作るとちょうどいいだろう！と計画を進めた。長く使うものなので、妥協はせず、スペースにきっちりと収まり、子どもの手が届き、いつでも本が身近に感じられるような、こだわりの詰まったオリジナルの本棚を業者と何度も何度もやりとりをして作って頂いた。小さい本と大きい本が上手く収納できるように段を設定し、紙芝居は奥行のある棚に収納できるようにする。また、子どもが自ら読みたい！と思えるように絵本のディスプレイが出来るよう、最上段に工夫を凝らしてみた。絵本をディスプレイすることで、目から興味を持ってくれたらいいな、との思いと、季節感、行事を自然に感じてほしいという思いがあった。よって、ディスプレイの絵本はちょくちょく変えている。春には、春っぽい絵本や春の花や虫の図鑑、新年度すぐの行事の遠足の前には、遠足やピクニックなどのお話の絵本が目に入る環境を作った。



【春の絵本が見えるところに並ぶ。この日の給食はお魚なので“さかな”の本も！】

また、“親子でホッできるスペース”を提供したかったので、タイトルのとおり『絵本の森』にしたいと考えた。森、というほどの広さではないが、無機質に本が本棚に収まるスペースではなく、そこに温かい空気が流れるような雰囲気作りを目指したかった。森のイメージに合うように、本棚のコーナーに少し背の高い観葉植物を置いた。子どもが楽しくなるように、小物も飾り、森のイメージを膨らませることにした。

絵本棚がオーダーだったこともあり、実際に園に納められたのが初夏であった。子ども達は「わ～スゴイ！」「絵本たくさんで嬉しいね」「卒園までに全部読めるかなあ」と約50冊の絵本と紙芝居を前に子ども達の目は輝いていた。



【紙芝居の世界へようこそ…1歳児】

【春の絵本が見えるところに並ぶ。この日の給食はお魚なので“さかな”の本も！】



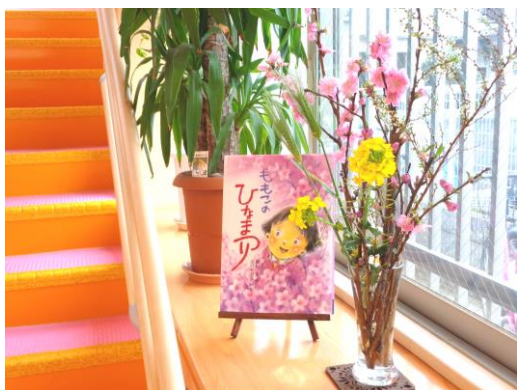
【絵本の読み聞かせの時間…3歳児】

【春の絵本が見えるところに並ぶ。この日の給食はお魚なので“さかな”の本も！】

3. その成果と評価

「子ども達が絵本に触れる時間が増えた」「子どもがいつも絵本に囲まれた環境がある」「行事や季節の絵本があることで子ども達の興味が広がった」主な職員の声である。

絵本棚の上に、ディスプレイできるような作りにしたので、そこには季節の絵本や行事、子ども達に伝えたい内容などの絵本を並べている。また、園内のそこここのスペースにも季節にちなんだ絵本を飾っている。



【3月のひなまつり、そして卒園式に近いこともあって『みんなともだち』の絵本】

夏のある日のこと。私たちの園は裸足で遊べる園庭があり、あえて遊具を置かず、子どもが主体的に遊びを作り上げて欲しいと思っている。陽気がよくなると、泥んこ遊びが始まる。「“どろんこハリー”とおんなじだね」とある子どもが嬉しそうに言った。どろんこハリーは、この時期を前に飾ってあった本だ。また、秋の運動会前には、運動会やかけっこにちなんだ絵本を飾っておいた。“よーいどん”という絵本は、まさにかけるこの、“よーい”の場面が表紙だ。子ども達は、「よーい、どんって言ったら走るんだよ」「思いっきり走るんだよ」「うんどうかいはいフレーフレーっておうえんするんだよ！」と口々に絵本のシーンを思い出したかのように盛り上がっていた。運動会とは、と話をせずとも、絵本を

読むことでイメージがわいたり、楽しみにしたり、自分達も運動会に出るんだ！という気持ちになったり、と期待に胸弾ませていた。絵本はとても自然に子どもの心に飛び込むのだ。絵本を読まずとも、保育園の絵本棚に飾った“よーいどん”を見ているだけで運動会が楽しみになる、絵本効果だ。

絵本は読み聞かせのほか、自分の好きな本を選んでそれぞれが読む場面もある。また、大きいクラスでは絵本コーナーで思い思いの絵本を選んで自分達のお部屋に持ち帰って読む時間も設けている。そこは図書館のような静けさだ。子ども達は絵本に引き込まれているのか、その顔は真剣だったり、楽しいお話を読んでいるのか、笑顔で読み進める子どももいる。大人の読み聞かせも必要だが、自分の興味関心のある絵本を読む、或いは見る、という時間、経験もまた子どもにとっては大切な時間なのである。



【もうすぐ卒園の5歳児。自分の好きな絵本、気に入った絵本を選び静かに読む。】

夕方のお迎えの時間。こちらの想像以上に、お迎え時に親子で絵本コーナーを利用している。毎日、お決まりのコースになっている親子もいれば、たまにだったり、週のうち何度か、という親子もいる。ママは一刻も早く帰りたいであろう、子どもに促されて嫌々本を読んでいるのでは…と当初、心配したが、全くそんなことはなかった。保育園の中で、むしろその場所だけが異空間のような、親子のとても素敵な光景がそこにあった。ママの眼差しはとても優しい。子どもは本当に満足している安堵の表情だ。夕方、数組の親子がそこにいる。1日で最もゆっくりと時間が流れている時かもしれない。フローリングが床暖房になっていることも手伝って、身も心も温かく、見ている方も心がホッとする。

保護者の声、感想を伺った。

「絵本コーナーで一息つくことで、自分もワーキングウーマンから母へ切り替えができる」

「家に帰ると、家事に追われて子どもと関われない。絵本コーナーで子どもに本を読んであげることが1日の中で唯一、子どもと向き合える時間になっている。」

「図書館にわざわざ行くのは億劫だし、広すぎて親子で疲れてしまう。その点、保育園はゆっくり好きな本を読めるちょうどいい空間がある。」

「ここで本を読んであげる時間が、自分を母親らしく思える時間」

「“絵本は〇冊、〇時までね”と決めているので、子どもにとっては充分ではないはずなのに、家に帰ってから、ちゃんと一人遊びをして食事を待っていてくれて助かる」
嬉しい声がたくさん集まった。



【お迎えに来られたママとのひととき。そこには温かな空気が流れています。】

4. 今後の課題と展望

「出した本はあったところにしまいましょう」と子ども達に声をかけている。恐らく、保護者の方々もそう意識して下さっている、とは思いますが、現状はなかなかそうはいかない。こじんまりとしたスペースで、出来るだけ家庭的な雰囲気を作りたかったこともあり、図書館等でよく見かけるような背にラベルを貼ったり、本棚に分類を促すような記載は何もしていない。一応、幼児向け、乳児向け、大きい本、小さい本、シリーズ等で分類し整理をして収めてあるが、一見するとどこから取ったかわからなくなってしまう、或いはルールが徹底しておらず適当なところになってしまう、ということになってしまう。現状では、季節や行事毎でディスプレイする絵本を選別する際、併せて整理しているが、出来ることなら、保護者も巻き込んで、子ども達中心に整理を心がけたいと考えている。手始めに、5歳児の当番活動の一つに「本棚整理」を入れてみた。保育室内の本棚なので、冊数にしてみればさほどでもないかもしれないが、1年、観察していると今では見事に整理が出来ている。当番の子ども達でシリーズ別、大きさ別にきちんと気持ちよく収めている。勿論、5歳児ともなると、そういう力もついてくるのだろうが、それよりも当番を経験することで、子どももあった場所に直す習慣がついたのである。これを、何とか園の本棚の整理に繋げないかと考えている。



【保育室内の絵本の整理をする5歳児】

また、帰りに絵本コーナーに立ち寄る親子は多いが、顔ぶれは決まっているように思う。1年で固定化してしまったかもしれない。相変わらず、子どもがグズグズギャンギャン大騒ぎをして引っ張られるように園を後にする親子もいる。そんな時、ちょっと絵本コーナーに寄って下さる時間はなかったのかな、と残念に思う。出来るだけ多くの方に利用して頂き、素敵な時間を過ごせる新たな親子が誕生すると嬉しく思う。

これからも子どものために、そして保護者サポートのために、絵本コーナーを喜んで頂けるものになるよう目指したい。

以上

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 砂原母の会
施設名	そあ季の花保育園
報告者（役職）	稲垣 春子（園長）
住所・連絡先	東京都練馬区大泉学園町 2-22-14
	☎ 03-3978-8008
	E-mail sower@kinohana.info

○タイトル（保育計画）

絵本大好き

○主な助成備品

リーフ型テーブル、ベンチ

1. 実施した保育計画策定の目的

日々の忙しい生活の中で、親子で絵本を楽しむゆとりを持てないのが現状である。迎え時のひと時に絵本を通し親子の交流を図り、保護者と子どものかかわりが持てる場所づくりを考えた。また、親子だけでなく、日々の保育の中で集団で過ごす時間は多くあるが、個々の子どもとの保育者の関わりを大切にできる時間が少ない。個々の関わりの場所として、スペースのある玄関ホールや乳児の受け渡し室に絵本のコーナーを設置する。

2. 具体的な実施内容

①2 階 乳児受け渡し室

ベンチと椅子



②玄関 絵本スペース

ベンチとテーブルの設置



新設の保育園であるため保育者と子どものかかわり、保護者と子どものかかわりをゆっくりともてる場所、日々の保育の中で個々の子どもとの関わりを大切にできる場所として活用した。

3. その成果と評価

乳児の受け渡し室では朝の支度を保護者がしている間に子ども達が絵本を読んで過ごしている。

保護者も子どもの対応に追われながら準備をしないでいられるため、ゆとりをもって子どもと接する姿が見られる。



幼児クラスの子どもたちも少人数でゆったりと過ごす時間を持つことで、自分の好きなことにじっくりと取り組むようになってきた。

毎日忙しく過ごす保護者だが、迎えの時間に子どもと向き合い絵本を読んでいる。親子の関わりを持つきっかけになっているようだ。親子で絵本に興味を持つきっかけとなっている。



4. 今後の課題と展望

玄関に入ってすぐにある本棚とテーブル、イスが保育園のシンボルとなって定着しつつある。保育園に在園する親子はテーブルとイスがあることで、そこに置いてある絵本と関わるきっかけとなった。はじめて保育園に来た親子も木の温かみに触れ、ゆったりと座り過ごしている。保育時間が長時間になっている今、保育園で過ごす子どもたちが落ち着いて生活できるように、できるだけ落ち着いた空間を整えていきたいと考えている。

今後はこの絵本の貸し出しなども行い、絵本コーナーを保育園の特色として地域にも広げていきたい。

以上

保育計画成果報告書

法人名	ナチュラルスマイルジャパン株式会社
施設名	まちの保育園 六本木
報告者（役職）	本村洸輔（コミュニティーコーディネーター）
住所・連絡先	東京都港区六本木一丁目 9 番 10 号アークヒルズ仙石山森タワー1F
	☎ 03-6441-2478 E-mail info2@machihoiku.jp

○タイトル（保育計画）

コミュニティガーデン

○主な助成備品

水道設備・砂場・コンテナガーデン

1. 実施した保育計画策定の目的

昨今の子どもの環境をみると、地域のつながりが希薄化していたり、子どもが保育園・幼稚園の往復になっていたりと、核家族化により母親に育児の負担が偏ってしまっていたりと、子ども達が日々の中で触れ合う人格に限られてしまっている現状があります。私たちはこの「コミュニティガーデン」を通して0～6歳の大切な人格形成期に多様な人格に出会う機会を提供したいと考えました。加えて、保育園が地域に溶け込む為の窓口として機能していくような願いを込めています。

また、都会には整備された美しい花壇はたくさんありますが、子ども達が自由に関わることができる自然はあまり多くありません。この「コミュニティガーデン」で子ども達が実体験を通して四季や命の息吹を感じることができるような場を作るようにとも考えています。

2. 具体的な実施内容

a. ワークショップ

毎月一回、保護者とともに文字通り手作業で環境作りをしました。穴を掘り砂場を作り、コンテナガーデンを整え、ウッドデッキ作りに壁に飾るタイル絵作りも行いました。そこには常に対話があり、プロに工事を頼んでいきなり完成させるのではなく、決まった設計図のない中で試行錯誤を繰り返しながら、あえて非計画で進めています。今後も少しずつ手を加えていく予定です。



b. ガーデナーさんとの植栽作り

近隣の植栽を管理するガーデナーの方と出会い、子ども達と一緒にコミュニティガーデンの植栽作りを続けています。種を植えて花を咲かせるだけでなく、枯れたら腐葉土を混ぜて土を甦らせ、次の植物へと繋げています。チューリップの球根を年々受け継いでいく事が今の目標です。



c. 野菜作り

コンテナガーデンで、野菜作りを行っています。あえて専門家に指導を受ける事はせず、失敗する事も体験の一つとして、楽しんでいます。夏野菜は取れすぎるぐらいでたくさんの方へお裾分けができました。だんだん鳥達が集まってくるようになり、作物を食べられてしまうようになってきました。子どもたちも巣箱を設置するなど、鳥への興味・関心は育っているので、どのように工夫して共存していくか楽しみです。



d. お餅つき会

近隣地域の方々をお招きしてお餅つき会を開催しました。子ども達はもちろんの事、大人も初体験の人が多く、また、土地柄もあり多様な国籍の方々に参加頂き、盛況のうちに終える事ができました。六本木一丁目というこの地で、かまどに薪で火を熾し、餅つきができた事はこの場ができた事と地域の方々の協力があつてのことです。



3. その成果と評価

地域の方々に見守られながら、子ども達は日々、このコミュニティガーデンで活動しています。通りがかった人が、野菜の育て方のアドバイスをしてくださったり、植栽を褒めてくださったりと自然な形でコミュニケーションが生まれ、社会の一員としての自覚が芽生える機会になっていると感じます。また、出会う人の年齢・国籍が幅広く、住民・ワーカーと様々な人々に接する事で、多様性を受け入れる素地を養っているのではないかと思います。

砂場作りのワークショップでは、お父さん達を中心になって、汗を流しながら生まれて初めてのツルハシ作業に勤しみました。掘れば掘るほど割れた陶器やガラス片、レンガの破片などが出てくる土地でしたが、共に汗を流し活動する事で、子どもと保護者・保護者同士・保護者と職員の交流を図る事ができ、また、土曜日に活動する事で平日にお会いする事ができない地域住民の方々と出会いを持つ事ができました。その後に会った地域の人によると第二次大戦中に焼け野原になったこの辺りでは、瓦礫をそのまま埋めて家を建てたという話を聞く事ができ、地域の歴史を知る良い機会になりました。出来上がった砂場では、日々子ども達がダイナミックに遊んでいます。泥遊びをした経験がなく、汚れる事に及び腰だった子が、全身泥まみれになって遊ぶ姿がみられた時、職員一同嬉しさ一入でした。

野菜作りも、子ども達が熱心に取り組んでいます。種から育て調理までする事で、食物の成り立ちから食卓に上るまでを体験しています。夏野菜は、家庭へお裾分けできるまで収穫できた事で、自尊心が満たされ、他の活動への自信に繋がったようです。

コンテナガーデンや砂場の横に生える雑草も子ども達の良い教材です。自由に摘む事ができるので、食卓に生けたり、花輪作りや見立て遊びにも活用されます。摘む時の感謝の気持ちを忘れず持つ事で日々、自然の尊さを感じています。

4. 今後の課題と展望

今後はより一層、地域の子育て世帯への支援の場としても活用していく予定です。発達に則した砂場での関わり方講座や青空読み聞かせ会・全身を使って行う絵具体験などを考えています。また、地域へ開放する為に園児の安全が担保でき、且つ、窮屈にならないようなルールも考えていきたいと思っています。

地域の方々と名前呼び合える関係を築き、子どもを中心により良い社会を築く為に人々が共に考え、協力し合い、そこに「してもらう存在」としてだけではなく、地域で生活する一人の人間として子ども達が関わっていく事ができればと考えています。まだまだ始まったばかりの活動ですが、第一歩としての「場」作りを助けて頂いた事に感謝致します。

以上

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 ゆめ和
施設名	ゆめ和ほいく えん
報告者（役職）	井坂 直人（施設長）
住所・連絡先	神奈川県横浜市金沢区六浦東 3 - 1 2 - 1
	☎ 045-701-6302
	E-mail Yumewahoikuen_2002@ybb.ne.jp

○タイトル（保育計画）

背もたれの無い椅子を導入する事により、幼児（3～5歳児）における正しい椅子の座り方と園児の健康を保持する。

○主な助成備品

特注丸椅子… 30脚

1. 実施した保育計画策定の目的

姉妹園のゆめ和柳町ほいくえんで開園4年目に「子ども達の姿勢の悪さ」が職員会議で提案された。数ヶ月の討議の末、背もたれの無い椅子を試験的に使ってみたところ、背もたれに寄りかからない姿が見られた。その後、低年齢児に対して背もたれの無い椅子を使用し続けた。

はじめのうち、背もたれがあると思えば後ろにひっくり返ってしまう姿が何名も見られた。しかし、使い続ける事により、その後は一度たりともひっくり返る子どもはいなかった。また、背もたれのある椅子より姿勢が良くなる傾向が見られた。

平成 25.4～ ゆめ和ほいくえんの開園の際に保護者・子どもと一緒に入園面接を行うと、面接の途中で身体を支えられず猫背になっていく子どもが殆どであった。子ども達の健康状況、特に喘息及び気管支炎の子どもが多い事がわかった。

また、開園してみると、我々が予想していた以上に子ども達の椅子の座り方は、目に余るものであった。家庭での生活は、畳での生活より椅子の生活が圧倒的に多く、家庭で椅子の座り方を正しく伝えられているとは思えない状況であった。

このような現状から・・・

- ① 正しい椅子の座り方や持ち方（移動の際）を伝え続ける。
- ② 猫背等の状況が少なくなり、背筋を伸ばして常に座ることが出来る様になれば、自然と呼吸も深くなる。

③ 椅子に正しく座るというマナーを身に付け、加えて喘息や気管支炎を持っている子ども達の状況を少しでも防げるのではないかと。

丸椅子を使用する事で、背もたれのある椅子を使用していた時の様に保育士が「ちゃんと座りましょう」と呪文の様に毎日毎日口うるさく指導するのではなく、「自らが背筋を伸ばして座る」事を目指したい。

この仮説に基づき、第一生命財団様の助成金で「背もたれの無い特注の丸椅子30脚」(写真-1)を購入させて頂き、正しい椅子の座り方を伝えていく事で園児の健康を保持する事を目的とした。



(写真-1)

2. 具体的な実施内容

一言で「丸椅子」と言っても、どの様な物が良いのか。私が以前に勤めていた保育所では、園児が椅子(箱椅子)を持って保育室から他の場所へ移動する時、2～3歳児は椅子が重くて躓いたり転んだりするケースが多くあった。そのため持ち易く、ある程度軽い椅子である事。また、スタッキングが出来れば保育室で邪魔にならない。座面はどの様な形状になっている物が子ども達のお尻にフィットし、座り易い(ある程度の時間座り続けられる)のか等を考え、プロトタイプをいくつか作成し完成に至った。

実際に使用し始めた時(H25.12.26)は、想定していた通り背もたれが無いために後ろにひっくり返ってしまった子どもが数人いた。その後は誰一人ひっくり返る子どもはいない。2月に入った頃「丸椅子に変えただけでは背筋を伸ばすところまで行かないのではないかと」と言う課題が現場から出された。当園の3～5歳児は、他の保育所から転園して来た子ども達が殆どであり、年中児であっても姿勢を伝えている保育所はほぼ無い様であった。また保護者に聞いてみても、家庭での姿勢や椅子の座り方を伝えている家庭はほとんど無かった。

この状況に対しての保育士の関わりを職員会議で検討した。その結果、保育士は子ども達に以下の様な言葉掛けをする事に至った。

代表的な言葉掛けは…「身体の強い人になりたいければ、正しく椅子に座ってみよう。」や「大きく（背が高く）になりたいければ、背中をピンとすると良いよ。」「あら、〇〇〇組には、おじいさんやおばあさんがいるの？」等である。

3. その成果と評価

新年度になり、入園して来た子ども達に対して我々が予想もしなかった事が起きた。園の約束事などを、どの園も在園児が伝えていくのであるが、その中で「椅子に座る時は、こうやって座るんだよ。」と在園児自身が椅子に座る姿を手本として、脚の位置まで伝えている姿が見られた。保育士も毎日毎日椅子の座り方に対して口うるさく伝えているわけでは無いのにもかかわらず、子ども達は丸椅子の正しい座り方や椅子の向き（椅子の足が邪魔にならない位置取り）を実際に伝える事が出来ていた事には驚かされた。

以下、

1. 椅子を持って保育室やホールへ移動する時に椅子を落としたり、つまずいたりする子どもはいなくなった。
2. 2～3ヶ月間経験していくと、設定保育時でも自由保育の時でも、かなり姿勢が良くなった姿が見られるようになった。（言葉掛けを含む）
3. 子どもが自由に椅子を使う場面でも、活動により座るポジションを選び（自分が座りやすい位置）正しい姿勢を保つ事が出来る様になった。（写真-2 及び 3）
4. 開園2年目の後半になると気管支炎や喘息の発作で特に長期休む子どもは、殆ど見られなくなった。

勿論、子ども達に椅子の正しい座り方が出来る様になったからといって、「もう子ども達は出来るから」…と終わりでは無い。ある程度のスパンで何故正しく椅子に座るのかという理由や子ども達が座っている姿を確認していく事は必要である。



写真-2（3歳児…脚部の位置も理解しての使用）



写真-3（4歳児）

4. 今後の課題と展望

背もたれのある椅子を使っても、正しい椅子の座り方は伝える事は出来る。ある程度の時間を座って作業する時には、背もたれのある椅子を使って活動する方が現代の子ども達

にとって、すぐに寄掛かれる椅子の方が楽である事と言える。勿論、背もたれに寄掛かり
る事が悪いと言う事では無い。しかし背筋を伸ばし正しく座わる事の重要性を我々保育士
が子ども達に伝える時、より注意深く子ども達の様子を見たり、言葉掛けを常にしなけれ
ばならない事になる。結果として注意する回数は確実に増える。

その点、丸椅子は座面の形状と高さが子ども達にフィットしていれば、上記の状況にな
りにくいと言えるのではないだろうか。じっくり活動する時は、座面にしっかり座る。立
ったり座ったり移動したりする活動の際には、浅く座るなど、自分にあったポジションを
「座る」という行動を通して身体で身につけている姿が見られる。その時の姿勢は、真っ
直ぐになっている。

また脚部の位置も足にぶつかるかどうかで自分でその位置を変える事が出来る様になっ
ている。

一方で、椅子の形状が丸で良いのか、と言う疑問が出てきた。園児の身体が机に向かっ
て斜めになるケースが見られる。特に3歳児である。

丸椅子は何処でも座れるが、3歳児にとって机に対して真正面を向いて座ると言う感覚
があまり見られない。もしかすると四角い座面の方が良いのかもしれない。しかし丸い座
面と四角い座面での「座りかたの違い」は、現段階では分からない。このことは今後の課
題にしたいと思う。

以上

保育計画成果報告書

法人名	学校法人 純真学園
施設名	純真保育園
報告者（役職）	野崎裕子（主任保育士）
住所・連絡先	福岡県福岡市南区筑紫丘 1-3-1
	☎ 092-553-5593
	E-mail j.hoikuen@junshin-c.ac.jp

○タイトル（保育計画）

・絵本を通しての親子の絆 ・絵本を通して、保育士が伝えたいこと

○主な助成備品

・絵本、図鑑 ・本棚

1. 実施した保育計画策定の目的

保育園の保護者は、仕事と家庭生活（子育て）の両立をしていく中で、乳幼児期が人間形成の大事な時期として、母親との触れ合う時間の大切さを考慮し、子どもが就寝するまでの短い時間の中で、親子の絆をしっかりと結び深めていく手段の1つとして絵本を活用してもらいたいということを目的としました。

また、保育士が、いろいろなジャンルの本を読み聞かせすることにより、心が育つこと、集中力、探究心などが培われていくことを目的としました。

近年の社会の状況の中から、ものを大事にすること、また絵本の取扱いについて親子で考える機会を持ってもらいたいという意図も含めています。

2. 具体的な実施内容

“純真の絵本バック”を準備し、親子で絵本選びをして毎日1冊の貸出をしました。また、保育士は、毎日の時間の区切りには、絵本の読み聞かせをし、行動の区切りを明確にし、物事に“けじめ”をつけることの大切さを実施しました。よって、一日に5冊以上の絵本の読み聞かせを実施してきました。

また、活動の時間の中でも、自分で絵本読みをする時間を設けました。自分で絵本を選ぶこと、自分で物事を考えることの大切さなどを実施しました。

看護学生の絵本の読み聞かせの保育ボランティアの受け入れをし、たくさんの人との交流の時間を持ちました。また、学園内の短期大学のこども学科が併設されているため、保育実習などでも、絵本を読み聞かせる時間を持ちました。

3. その成果と評価

保護者の子どもとの触れ合い方や、会話の中から、絵本を通して、就寝前の時間を上手く使って、子どもとの心と結びつきが深いことが窺われ、“今”のこどもの姿をしっかりと見つけていることがわかります。

また、保育園の年中、年長児になると、少し、高度な図鑑などを見ることによって、子どもの興味が幅広くなり、探究心も深くなってきました。

絵本の読み聞かせを持続することにより、人の話を静かに聞くこと、集中力が増してきました。絵本が身近なものとして存在することは、自然と文字を覚えることにもつながってきました。

4. 今後の課題と展望

本園の子どもたちは、絵本を通して、この一年間が充実したものとなりましたが、開園して日が浅く、地域の子育て中のお母さんたちに支援ができていない状況にありました。

これからは、地域の子どもたちにも、絵本の読み聞かせをする時間を設け、さらには、保育園の子どもたちと同様に、絵本の貸出をして、地域の人たちとも関わりも持っていきたいと考えています。

そして、地域に密着した保育園を目指していきたいと思っています。

“純真絵本バック”と“絵本貸出簿”



“絵本の部屋”



以上